

沖縄科学技術大学院大学(OIST)

● OISTの概要

- ・世界最高水準の教育研究を行うことにより、沖縄の振興と自立的発展、世界の科学技術の発展に寄与することを目的として平成24年9月に開学しました。
- ・①神経科学②分子・細胞・発生生物学③数学・計算科学④環境・生態学⑤物理学・化学の5分野で、約50の国・地域から教員59名(うち外国人38名)を含む計457名(同242名)の研究者が、先端的・学際的な研究に従事しています。(H29.5.1時点)
- ・5年一貫制の博士課程(単一の研究科・専攻)のみ設置し、第1～5期生を合わせて130名(うち外国人107名)の学生が在籍しています。(H29.5.1時点)
- ・平成29年1月よりピーター・グルース博士が学長に就任しました。グルース学長は、基礎研究を中心に世界トップレベルの研究を行うドイツのマックス・プランク学術振興協会で長らく会長を務められました。



ピーター・グルース学長

● 研究活動例(海洋関係)

・サンゴの研究

サンゴの全ゲノム解読に世界で初めて成功し、サンゴが死滅する「白化現象」の仕組みを解明しました。サンゴの保全に貢献することが期待されます。



サンゴ礁

・モズクの研究

オキナワモズクの全ゲノム解読に世界で初めて成功しました。モズク類の養殖技術の改善や品種改良に貢献することが期待されます。



モズクの収穫の様子

● 産学連携例

・OIST 発ベンチャー企業

沖縄プロテインドモグラフィ(株)が2014年に設立されました。タンパク質を効率的に解析する技術を使用して、医薬品の開発に寄与することが期待されます。



タンパク質を解析している様子

・蒸暑地に適したエコ住宅システム

(株)ミサワホーム総合研究所と持続可能なエネルギー利用システムの共同研究を進めており、蒸暑地での住宅システムの開発に貢献することが期待されます。



実験棟外観

● 地域連携例

・こどもかがく教室

毎年夏休みに OIST 研究員やスタッフ、恩納村の教職員や保護者のボランティアが連携して、小学生を対象に科学実験教室を開催しています。



こども科学教室2016年の様子

・女性理工系人材の育成に向けた取組

県内女子中高生に、OIST 等の女性研究者・学生が講師となり、科学講義や実験を実施しています。研究室の様子や学生生活、大学卒業後の進路などの相談も実施しています。



サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズの様子

OISTの詳細については、OISTホームページ <http://www.oist.jp/ja> をご覧ください。

写真提供：OIST（モズクの収穫の様子は沖縄県）